

## 平成 27 年度全国体力・運動能力調査 笠間市の結果について

### 《平成 27 年度全国体力・運動能力調査の概要》

#### 1. 調査の目的

子供の体力等の状況に鑑み、子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

#### 2. 調査の名称

「平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

#### 3. 調査の対象とする児童生徒

小学校第 5 学年および中学校第 2 学年

### 《笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

#### 小学 5 年生

小学 5 年生では、男子はソフトボール投げを除く 7 種目、女子は全種目で全国平均を上回った。

茨城県平均と比較すると、男子は握力を除く 7 種目、女子は全種目で笠間市平均が上回った。

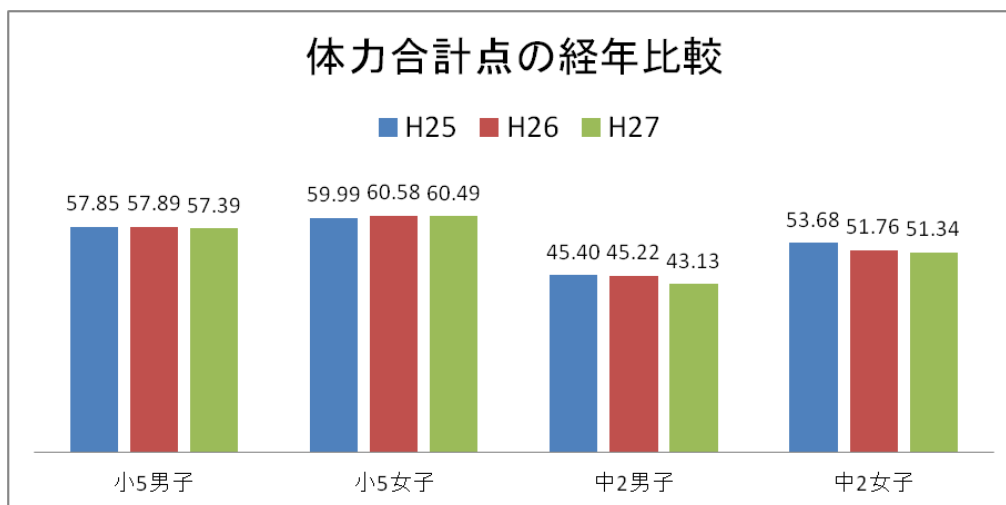
#### 中学 2 年生

中学 2 年生では、男子は長座体前屈、ソフトボール投げを除く 6 種目、女子は反復横とびを除く 7 種目で全国平均を上回った。

茨城県平均と比較すると、男女とも多くの種目で県平均に及ばなかった。

### 《笠間市の経年比較(体力合計点)》

笠間市では、調査対象の小学 5 年生、中学 2 年生の男女とも、前年を下回った。



## 《笠間市の課題および学校の取組》

### 小学5年生

男女ともに多くの種目で国平均、県平均を上回ったが、男子の握力で県平均、男子のソフトボール投げで国平均を少し下回った。投げる動作を積極的に授業や遊びに取り込み、投力の向上につなげていく必要がある。また、一部の小学校では準備運動としてサーキットトレーニング(うんてい、のぼり棒や鉄棒など複数の遊具を回っていく運動)を導入し、握力を含めた筋力の向上に取り組んでいる。

### 中学2年生

男女ともに多くの種目で県平均を下回った。中学校では走力の向上に努めている学校が多く、20mシャトルランの記録からすると、長距離走力がついている生徒が多いとみられる。一方で、柔軟性や瞬発力、短距離走力に対する取組が必要である。中学校では、準備運動時の十分なストレッチの実施や、個人の運動能力に合わせたトレーニングメニューの作成といった取り組みがなされている。

小中学生とも、運動能力は個人差があることから、自分自身で楽しみや課題を見つけ、運動に継続的に取り組むことが重要である。そのために、学校では動機づけとなるような環境の整備や、授業の質を高めるなどして児童生徒の意欲や体力を引き出していく必要がある。